子（ねずみ）　十二支でなぜ一番？？？

「子、丑、寅……」でわかるように十二支は子（ねずみ）から始まりますが、どうしてネズミが最初なのでしょう？もともと十二支は動物とは無関係のもので、東西南北の方角に「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」と漢字を当てていましたが、十二支を覚えやすくするために、その字に動物を当てはめていったのです。その成立ちには様々な話がありますが、昔から語り継がれてきた民話をご紹介します。

昔々、ある暮れのこと‥‥。神様が動物たちに御触れを出しました。「元日の朝、私のところへ出掛けてきなさい。最初に到着したものから 12 番目のものまでを、1 年交代でその年の大将にしてあげよう」。動物たちは、「我こそが 1 番になるぞ！」と張り切っておりました。ところが、ネコは話を聞き漏らしてしまい、ネズミに尋ねます。すると、ネズミはわざと 1 日遅れの日付を教えてやり、ネコはそれを真に受けて帰っていきました。

元日となり、足の遅いウシが誰よりも早く夜明け前に出発しました。すると、牛小屋の天井でこれを見ていたネズミが、こっそりウシの背中に飛び乗りました。そんなこととは知らないウシが神様の家に行ってみると、まだ誰も来ておらず門も閉まったまま。我こそが一番だとウシは喜び、門が開くのを待っていました。

やがて、朝がきて門が開いたとたん、ウシの背中からネズミが飛び降り、ネズミが 1 番となってしまいました。残念ながらウシは 2 番となり、それからトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシの順で到着しました。1 日遅れで出掛けたネコは番外となり、それ以来、ネズミを恨んで追い回すようになったそうです。

こうして、最初がネズミとなり、動物を当てはめた「十二支」が広く浸透していったのです。